

令和4年度国際居住年記念賞受賞者の概要

一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会

代表理事 榎本 恵

所在地 福岡県北九州市小倉南区

当団体は2013（H25）年、代表理事である榎本恵氏（当時ベンチャー企業の起業・事業開拓事業を行う）が日系企業の新規事業開拓の依頼で半年間滞在したモザンビーク共和国カーボデルガド州において、先進国と後進国のニーズの乖離、貧困者がさらに貧困化する状況を改善すべく、NGOを設立したことに始まる。

榎本氏は団体設立当初、スラムの人たちと同じ生活をして、信頼関係を創りながら、コミュニティの皆がほんとうに必要なことのために、皆と動くということを重視し、スラム地区で住まいを探し、事務所兼住まいとすることとされた。まず、最初に地区の人々と一緒に、井戸やトイレを設置することだった。先進国によるアフリカの土地の収奪が問題化していた中、識字能力のない住民が契約書にサインする、という流れは止めようがなく、せめて文字を読めるようにしなければ、状況が悪化する！やはり、教育から始めないと同じことを繰り返してしまう！と、教育を循環させ、無教育の連鎖を断ち切るために「寺子屋」を建設することを決められた。

活動は多岐にわたり、スラムの学び舎・寺子屋（ペンバ、ナンプラ2箇所）での教育活動、公衆衛生指導、保健管理、水環境整備、環境保全活動：環境美化活動、省エネ実践活動、有機農業の実践、食べられる植樹活動に加え、テロ紛争サイクロン被災者支援活動なども行っている。また、イスラム過激派のテロ攻撃により国内避難民が88万人にもものぼり、州都ペンバにも多くの避難民が流入していることから約140名が暮らせる「平和の家」（Casa de Paz）を建築した。